

公衆衛生学(第1回, 5 Oct. 2015)
中澤 港 (minato-nakazawa@umin.net)
<サポートサイト> <http://minato.sip21c.org/publichealth/>

授業のテーマと到達目標

「公衆」, 即ち, 地域社会で普通に生活している人々, あるいは各種機能集団の人々の健康を保持増進するための理論と方法について学ぶ。

「健康」定義は実に難しいし, 保持増進するための理論と方法といっても, 社会条件や健康観が違えば違ってくるので, 社会の文脈が重要。その話で論じられている「公衆」がどういう集団を指しているのかという点には常に注意すべき。

授業の概要と計画

- 1) 公衆衛生学とはどういう学問か? 健康とは何か? (10/5)
- 2) 疫学・生物統計学(1)(10/19)
- 3) 疫学・生物統計学(2)+保健統計(10/26)
- 4) 医療法と医療制度(11/2)
- 5) 地域保健とヘルスプロモーション(11/9)
- 6) 母子保健・学校保健(11/16)
- 7) 老人保健(11/30)
- 8) 国際保健(12/7)
- 9) 感染症とその予防(12/14)
- 10) 疾病統計・慢性疾患の予防(12/21)
- 11) 衣食住の衛生(1/4)
- 12) 産業保健(1/18)
- 13) 精神保健(1/25)
- 14) 環境問題と公害(2/1)
- 15) 期末試験(2/8)

成績評価と基準

「期末試験による」とシラバスに書いたが, ミニレポートによる平常点も加味する。

参考書・参考資料等

- * 鈴木庄亮・久道茂(監修)辻一郎・小山洋(編)『シンプル衛生公衆衛生学 2015』南江堂
- * 『図説国民衛生の動向 2013/2014』厚生労働統計協会

1-1) 公衆衛生学はどのような学問か?

(A) 本質論

英語では public health

-logy でない

-ics でもない

専門家は public health *worker* とか public health *officer*

(B) 教育制度論

日本の大学には伝統的に医学部に公衆衛生学教室が存在したし, 医療関連職の国家試験でも衛生・公衆衛生分野は大きい(そのため, この講義でも参考書の内容はカバーする), 大学によって研究内容はバラバラだしテキストによっても異なる。

国際的には, 「医学や公衆衛生学」という扱いで医学と並列。米国でも Medical School と School of Public Health は別物(両方入って MD と MPH の両方を取得する人も増えてきているが)

途上国の保健省の職員は, Health Science の学位は欲しがらない。MPH や DPH が欲しい。日本でも専門職大学院として平成 15 年から公衆衛生学の大学院ができた。しかしまだ東大,

京大, 九大, 帝京大と国立保健医療科学院のみ。専門職でない MPH は長崎大, 筑波大が出している。阪大, 北大など(神戸大も含めて)新設する動きはある。来年から東北大が設置。

現状, 途上国から MPH 取得のため日本に留学したいという照会があっても断る(タイの Mahidol University などを紹介する)しかない。

(C) 内容論

米国には独法としてワシントン DC に Council on Education for Public Health (<http://www.ceph.org/>)があり, 公衆衛生プログラムや大学院の認証を行っている。この組織が公衆衛生学の学位を出すためのプログラムにコア知識として求めるのは以下。

1. 生物統計学: 健康に関連するデータの収集, 蓄積, 抽出, 分析, 解釈。健康関連の調査や実験のデザインと分析。統計学的データ解析の概念と実践
2. 疫学: ヒトの集団における疾病, 障害, 死亡の分布と決定因子。ヒトの集団の特徴と動態。疾病の自然史と健康の生物学的基礎
3. 環境保健学: コミュニティの健康に影響する生物学, 物理学, 化学的な要因を含む環境要因
4. 保健サービス管理学: 健康と公衆衛生の計画, 組織, 行政, 管理, 評価と政策分析
5. 社会科学と行動科学: 公衆衛生上の問題の同定と解決に関連した社会科学と行動科学の概念と方法

さらに, 系統的な実習を通して実践スキルを身につけることも必要であり, 実際に専門家として直面するような問題に対して知識と実習経験を総合して対処する総合研修をクリアしなければならない。

* 内容的には保健師に必要なスキルとかなり重なっているが, 歴史的経緯から統合は難しいと思われる

(D) 歴史論

衛生 = 「生命や生活をまもる」

個人の生命や生活をまもる方法論として

* 江戸時代「養生」(貝原益軒「養生訓」1703年)

* 明治時代: 長与専斎が欧州視察で生命や生活を守る概念として使われている hygiene の考え方が社会基盤整備を含み, 集団を対象としていることから, 敢えて「養生」を転用せず, 「衛生」を訳語とした

公衆衛生: 第二次世界大戦後, 占領政策の一環として医学教育に組み込まれた public health (health には健康という訳語が既に当てられていたけれども, public health の訳語は公衆健康とはされず, 公衆衛生学となった)。ウィンスロウ (C.E.A. Winslow; WHO) の定義(1949)「公衆衛生は, 共同社会の組織的な努力を通じて, 疾病を予防し, 寿命を延長し, 身体的・精神的健康と能率の増進をはかる科学・技術である」。内容としては, 環境保健, 疾病予防, 健康教育, 健康管理, 衛生行政, 医療制度, 社会保障があげられている。

* 公衆衛生学も衛生学も集団の健康についての学問。衛生学 hygiene はヨーロッパ生まれの基礎科学。公衆衛生学は米国生まれの**応用科学**。普通に生活する健康な人々を対象とするが対象とする人々の種類によって母子保健, 産業保健などに分かれる。

1-2) 健康とは何か？

文献

- 佐藤哲彦・寺岡伸悟・野村一夫・池田光穂・佐藤純一(2000)『健康論の誘惑』文化書房博文社.
- 上杉正幸(2002)『健康病:健康社会はわれわれを不幸にする』洋泉社新書 y
- Michael Winkelman (2009) Culture and Health: Applying Medical Anthropology. Wiley
- 鈴木継美(1982)『生態学的健康観』篠原出版
- 竹山重光(2005)『「健康」の概念化』,北海道大学文学部哲学倫理学研究室・科学研究費『応用倫理学各分野の基本的諸概念に関する規範倫理的及びメタ倫理学的研究』報告書

素朴に考えると？

- * 病気や死の対立概念→境界線が引けるか？ (cf.)Darwinian Medicine (進化医学)的な考え方では病気も適応の1つの形
- * 病気も disease/illness/sickness という異なる捉え方がある
- * お達者、健やか、丈夫、元気、などの違いは？
- * 厚生労働省調査:現代日本では8割程度の人が「健康とは病気でないこと」「自分はまあ健康」(上杉 2002)→そのわりに健康食品とか健康器具が流行るのはなぜ？

語源は？

漢字の「健康」は、「凡ソ人身、内外諸器常景ヲ全フシ、諸力常度ヲ守テ、運営常調ヲ失サルヲ健康トシ、諸器諸力、イブレカ常ニ違フ所有テ、運営常調ヲ失フヲ疾病トス」(出典:緒方洪庵(1835)『遠西原病約論』)が最初。蘭学者緒方洪庵が(同じ頃に高野長英『漢洋内景説』)にも出てくるが、この語の使用についてより自覚的だったのは緒方とされる)、西洋医学的な健康概念に当てるために発明。世間には、福沢諭吉(1874)『学問のすすめ(第四篇)』における、「すべて物を維持するには力の平均なかるべからず。譬えば、人身の如し。これを健康に保たんとするには、飲食なかるべからず、大気光線なかるべからず、寒熱痛痒外より刺衝して内よりこれに応じ、もって一身の働きを調和するなり。今俄にこの外物の刺衝を去り、ただ生力の働くところに任してこれを放頓することあらば、人身の**健康**は一日も保つべからず」や、西周(1875)の論文における「三宝とは何物なるやと云うに、第一に健康、第二に知識、第三に富有の三つのもなり」(西は「健康」に「まめ」というルビを振っている)辺りから。1882年の高等小学修身書「健康は、実に、万事の本にして、この上もなく大切なものとするべし」と書かれ、英語の health に対応する概念としての「健康」が定着(竹山, 2005)。

health の語源は、"heal", "disease", "sickness", "illness" の語源と関連。"heal"は「健康を回復すること、正しくすること、悪い状態や不安を取り除くこと、全体性がある健全であること」で、語源はインドヨーロッパ語の kailo-にあり、全体性、神聖性、良い兆しを意味する。"disease"は本来"ease"の逆。"sick"は精神的に良くないことで、インドヨーロッパ語の seug-に根ざし、トラブルがあると悲しいという意味。"ill"は中世英語の ill(e)にあり、悪いこととか、身体あるいは精神の sickness を意味するが元々は悪徳、悪意、罪、災害の意味。health が損なわれたときの対応は"medicine", "cure"がある。"medicine"はラテン語の medicina とインドヨーロッパ語の med-に根ざし、適切な手段をとることを意味。"cure"はインドヨーロッパ語の cūra から、健康を回復する意味。宗教的に精神の充足や魂の癒やしも意味。

WHO は？

WHO 憲章(1946 署名, 1948 発効)「健康は身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態をいい、単に病気がないとか病弱でないということではない」「到達しうる最高の健康水準を享受することは万人の基本的権利であり、人種・宗教・政治的信条・社会経済条件の如何を問わない事項である。それぞれの間人集団が健康であることは、平和と安寧を得る上で不可欠のことがらであり、このためには個人も国もお互いに十分協力しなければならない」

「完全に良好」は理念。到達目標あるいは政策的言明。

* アルマ=アタ宣言(1978)でのプライマリヘルスケア(Primary Health Care)についての考え方

* オタワ憲章(1986)での健康増進(Health Promotion)についての考え方、とくに Prerequisites for Health (健康の前提条件)

* 1998~1999 年 WHO 憲章改訂問題: "dynamic" と "spiritual well-being" を入れるかどうか。経緯は、WHO Executive Board (<http://www.who.int/gb/>) や世界保健総会 (World Health Assembly = 毎年1度行われる WHO の総会) のドキュメントに詳しい。Executive Board からは反対ゼロで総会上がったが、総会の予備審議であるコミッティBでは事務局預かり。白田寛(大阪医科大学)、玉城英彦(北海道大学)「西洋近代医学が成熟と成長限界を迎えると、病に対して心の問題を含めて全人的なアプローチを行ってきた伝統療法の「癒し」の効果へ関心が集まり、真に効果をもたらすものを選別、評価し、西洋医学と統合し第三の医療ともいわれる統合医療へ再構築しようという動きも起こりつつある」「今回健康定義への追加が提案された spiritual や dynamic という言葉は、イスラム諸国独自の精神文化による健康価値観に基づいていると伺える」。厚生省の立場は (spiritual について) 「WHO の過去の会議などの議論から、健康の確保において、生きている意味あるいは生きがいなどの追求が重要という立場から提起されたもの」(dynamic について) 「健康と疾病は別個のものではなくて連続したもの」(1999 年 3 月 19 日、第6回厚生科学審議会総会で金子課長)

文化人類学・医療人類学的には？ さまざまな健康の形

* 文化的多様性(中央アメリカメスチソの "salud", "sano/sana", "alentado" の違い/アメリンドの伝統宗教的健康観「身体、精神、魂、感情のバランスが崩れると病気になる」/トングウェ焼畑農耕民の生態学的健康観……不作、不猟、配偶者に巡り会えない、子宝に恵まれない、怪我といった不幸の原因の呪医による除去/ソロモン諸島住民がマラリアに罹る危険より日没後野外で涼しい風に当たることを優先していること等) パプアニューギニアでの社会的軋轢の説明原理としての呪殺

健康と病気の社会的構築

- 集団健診での「病気の早期発見」の意味
- ヘルシズム(健康信仰)
- 成人病→生活習慣病(→社会環境病:公衆衛生的健康概念。長野県はなぜ健康長寿なのか)
- "Clown Doctor" パッチ・アダムスの Gesundheit
- 存在論的-実体論的病気観と生理学的-機能論的病気観(竹山, 2005)